

オリパラかわらばん No.8

香川県教育委員会

『続けることの大切さ』



シドニーオリンピック 陸上競技 棒高跳 日本代表

香川高等専門学校 准教授 横山 学 (よこやま まなぶ)

香川県三豊市詫間町出身、詫間中学校で陸上競技を始める。観音寺第一高等学校時代、国民体育大会で優勝、5m21の日本高校新記録(当時)の実績を残す。高校卒業後、筑波大学に進学、4年時に日本選手権で優勝。1999年四国選手権で5m63の日本新記録(当時)を樹立。2000年織田記念国際において5m70で優勝、自己記録を7cm更新。同年シドニーオリンピックに男子棒高跳の日本代表として出場、5m55の五輪日本最高を記録した。2001年東アジア大会優勝、同年日本選手権優勝、同年エドモントン世界陸上選手権に男子棒高跳の日本代表として出場。

こんにちは、横山学です。香川県三豊市詫間町出身で、大学進学を機に茨城県へ移りました。現在は香川高等専門学校で教員をしております。私は、2000年のシドニーオリンピックに男子棒高跳(陸上競技)で出場することができました。今回はオリンピック出場までの道のりやオリンピック現地でのエピソードについてお話したいと思います。

棒高跳との最初の出会

私が初めて棒高跳という競技を知ったのは10歳の時でした。ちょうどロサンゼルスオリンピックのTV中継を観ていて、陸上競技の映像に切り替わると、筋骨隆々の外国人が長い棒を持ってすごい勢いで走ってくる。強く踏み切ると、棒がくにくんと曲がりながら選手がひっくり返る。まるで逆立ちをしているような状態で頭上のはるか高いバーめがけて跳ね上がる。上手くバーをすり抜けてマットに着地した時の選手の表情、観客の拍手や歓声がTVを通して私の目や耳に飛び込んでくる。その瞬間に『棒高跳やってみたい』『あの舞台上に白の丸のユニフォームを着て立ちたいな』という思いが湧き上がってきました。しかしながら、その頃の私は3歳から小児ぜんそくを患っており、お医者さんからは体育をしてもいいけど、授業以外での活動は禁止とされていました。だから、周囲の人に「オリンピックに出る!」なんて言ったら、ただただ笑われるだけで誰も信じてはくれない状況でした。

棒高跳との再会

時間が過ぎて中学生になったある日、幼なじみから「陸上部に入って一緒に棒高跳やろうよ」と声をかけられました。この頃には喘息もかなり回復していたので課外活動をするということについてお医者さんより許可は得ていました。何部に入るかちょっと考えていた時に彼からの言葉を聞き、TVを観て棒高跳をしたいと思った気持ちをふと思い出しました。そして、一緒に入部することにしました。棒高跳をやってみると、タイミングを計るのは意外に【難しい】こと。踏み切って棒に身体を預けることが【怖い】こと。身体が大きく体重もある程度あったので、鉄棒やロープを腕の力だけで上る練習が周囲よりもできず【悔しかった】こと。長い距離を数多く走る練習をするのは【嫌だった】こと。しかしながら、バーに触れず跳び越えることができるのはとても【楽しかった】ので続けることができました。ずっと続けているうちに記録がどんどん伸びていき、中学、高校、大学で日本一になっていました。

実は、頑張った気になっていただけ・・・

大学4年生の年にアトランタオリンピックの国内最終選考会がありました。目標通り優勝することができましたが、参加標準記録の5m60cmを跳ぶことができず、オリンピック出場を逃しました。試合後にこれまでの自分を振り返ってみると、『あの時は気持ちに負けてすべ予定の本数をしなかったな』とか『毎日の練習に死に物狂いで取り組めてはいなかったよな』とか『体調を整えるために規則正しい生活が送れていなかったな』と頑張った準備をしたつもりになっていたこと

に気がきました。『こんな思いは二度としたくないし、4年後のシドニーオリンピックは絶対に行く!』と心に決めて、それからの4年間は練習をしました。『これをすれば、記録が1cmでも伸びるかもしれない』と思われることは何だってやりました。毎日、『これ以上できる努力はないのか?』と考えました。

どんなにしんどくても、気分が乗らなくても、最初に決めたことは必ず最後までやりきりました。その結果、シドニーオリンピックの代表に選ばれることになりました。選ばれたことがわかった時は、【嬉しい】よりも心の底から【ほっとした】気持ちになりました。

選手村の中は?

陸上の世界一を決める大会は二つあります。4年に1度のオリンピックと2年に1度の世界選手権(世界陸上)です。私の初めての世界大会はシドニーオリンピックだったので、シドニーで実際に見聞きし、経験することすべてが初めてづくしでした。選手は現地に到着すると、選手村と呼ばれるところに入って過ごします。選手村は一つの町でした。マンションや一軒家があらゆる所に無数あります。郵便局、クリーニング屋、パソコンルーム、バー、皆で踊ることのできるダンスルームもあります。選手村の中はシャトルバスが巡回しているので目的地に行く場合は、ほぼバスを利用して向かいます。食堂では和、中華、イタリア、フランス、ベトナム系、南米系、中東系等とほぼ世界中の料理をビュッフェ形式で、千人程度が同時に食事をとることができました。また、軽食でよい人のためにカフェやマクドナルド、サブウェイ等の有名チェーン店もあります。選手村の中で受けるサービスは全て無料なので、マクドナルドは外国人選手にとって大人気、いつでも行列ができていました。ある海外選手は一人でテーブル上にハンバーガーを10個以上も山のように積んで食べていました。私は普段はマクドナルドで食べませんでしたが、試合後には一度にハンバーガー3個とナゲット2個を注文してぜいたくな気分になることができました。

いざ競技会場へ

陸上は3階建ての最大11万人を収容するスタジアムで行いました。これは陸上オリンピックで開催された最大の収容規模として今も記録に残っています。選手は隣のウォームアップ専用の競技場からメイン競技場へ地下通路を通過して移動し、最後に階段を上ってトラック脇に出ます。地下通路内に足音が響く中、競技場に近づくごとに少しずつ歓声のような声が大きくなっていきます。階段を上りきってトラックに立った瞬間、まるで自分のすぐ脇を電車が通っているかのような大音量の歓声に【驚き】、夢見ながら16年後に到達することのできた【喜び】、「この舞台上で結果を残さなければならない」という【プレッシャー】が入り混じり、足先から頭のとっぺんまで身体全身が震え上がったことは今でもはっきりと覚えています。あのような状況で代表のユニフォームを着て跳ぶことができたことは私にとって最高に幸せなひとときでもありました。

香川県の子どもたちへ

そこに至るまでは苦しいこともたくさんありましたが、苦しみが大きければ大きいほど、それを乗り越えた先にある喜びや感動も大きくなることをオリンピックに出たことで再認識できました。

もし部活動や受験等で苦しい思いをしている人がいるなら、そこからが本当の始まりです。そういう時は、それを乗り越えて達成した自分をイメージしてみましよう。イメージがなかなか湧かなければ、無理にでもそうなった自分を想像してください。これで半分は達成です。

その日が来ることを夢見て、すべき努力をこつこつと一生懸命に継続しましょう。一人でも多くの方が自身の夢や目標を現実のものにしてくれることを切に願っています。



(水戸国際陸上 5m60を跳んだ大会)